

# 審判研修 参加報告書

大会名 平成26年度全日本実業団バスケットボール競技大会	期間 2014年 9月 13日(土)～ 15日(月)
開催地 神奈川県平塚市	会場 馬入ふれあい公園ひらつかサン・ライフアリーナ
参加者 岩井 志穂	所属地区名 函館
講師 日本実業団連盟 中江洋美氏、北沢岳夫氏	
<b>実技研修、座学研修等の記録</b> 上級(主審)としてのゲーム運営 ・選手、コーチから信頼を得るためには、正しい判定を積み重ねることが重要。まずは、主審である自分がしっかりすること。 ・副審やTOも含めてゲームを掌握(副審が思い切り自身の力を発揮できるような状況にすることができる主審であること) ・コーチへの対応は、公平かつ迅速に。対応の仕方では状況が変わってくるので、場面にあった対応を行うこと。	
<b>実践実技1(実技の数によって増やす)</b> 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 9月 13日(土)	対戦カード 滋賀銀行 VS 日立笠戸
○主審 ・ 副審	相手審判 山口(九州)
<b>ゲーム前のカンファレンス内容</b> ・分担と協力の確認…エリア3・4の引継ぎ、エリア5のターンプレイの対応、オールコートDefへの対応 など ・判定…手を使ったプレイに対する基準を早い段階で示す。 ・チームの特長…身長差があるので、OFFボールの守り方に注意(特にポストのポジション争いとリバウンド)	
<b>ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス</b> 講師: 北沢あや子氏 ・総体的には、取り上げるべきものは取り上げており、大きなミスもなく終えたことはよかった。 ・取り上げる必要のないファウルがいくつかあったので、プレイの過程や影響をもっとしっかりみて判定することが必要。 ・パーミング…場面によってはリードの方が判定しやすいケースがある。	
<b>ゲーム感想</b> ・主審として、副審・TOも含め、ゲームを管理し、円滑に運営していくことを心がけてゲームに入りました。早い段階から点数差のつくゲーム展開でしたが、集中を切らさずに、カンファレンスで話し合ったことに注意して、2人で協力してゲームを終えることができたと思います。 ・「取り上げなくてもよいファウル」…選手の能力や、そのプレイに至るまでの過程、影響の度合いを正しく把握することが必要不可欠	
<b>実践実技2(実技の数によって増やす)</b> 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 9月 14日(日)	対戦カード 鶴屋百貨店 VS 紀陽銀行
主審 ・ 副審1 ・ ○副審2	相手審判 本間(関東) ・ 河合(東海)
<b>ゲーム前のカンファレンス内容</b> ・自身のエリアをそれぞれが責任を持ち判定すること。 ・取り上げるべきか、そうでないかをしっかり判断すること。	
<b>ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス</b> 講師: 中江氏 ・3パーソンの特性を活かした「協力」と「分担」が必要。 ・特性を活かすためには、3人各々が、3パーソンを理解していなければならない。	
<b>ゲーム感想</b> ・プレイスタイルが違うチーム同士の対戦で、スピードがあり、技術も高く、どちらが勝つか最後までわからないという内容のゲームでした。 ・3パーソンの理解がまだ十分でないために、位置取りやエリアの分担に影響が出てしまった場面もありましたが、3パーソンだからということではなく、プレイ自体の捉え方が、不十分で判定に影響が出てしまった場面もいくつかありました。	
<b>まとめ</b> この度は、このような機会をいただき、ありがとうございました。 全国で活躍されている多くの審判の方々とお話をさせていただくことができ、自身の活動を振り返るよい機会となりました。 上級審判員として、自身のレプリングはもちろんですが、レプリング以外の役割も果たしていけるよう、さらに研鑽を積んでいきたいと思っております。	